

青嵐（あおあらし）とは、「初夏の木々の葉をゆすって吹くやや強い風」、「青々とした山の気」などの意味がある言葉です。逗葉高校を吹き抜けるさわやかな風と、生徒の皆さんのたくましさをイメージしました。第15回は、「終わらせる」です。

逗葉高校の皆さん、いよいよ今年度の最終学期が始まりました。3学期は、短い期間ですが、この一年間で学んだこと、経験したことを、まとめ上げていく大切な期間です。

学年の、そして3年生にとっては高校生活そのものの、締めくくりの学期です。

「有終の美を飾る」という言葉があります。意味は、最後までやり通し、立派に締めくくるといことです。「有終」は、「有る」という字と「終わり」という字を書きます。中国の古い詩集『詩経』に、始める事は誰でもできるけれど、終わりまでやり遂げる人は少ないという一節があり、そこから「有終」は物事をやり遂げるという意味になったと言われていいます。やり遂げた結果が立派であれば、「美を飾る」となります。

「終わりよければすべてよし」という言葉もあります。意味は、途中経過は色々あっても、結末がよければ物事は高く評価される。最後に良い結果が出れば、途中のトラブルや苦労は問題にならないといことです。英語では「All's well that ends well」です。

終わりさえ良ければ「それでイイのだ!」と言うと、ちょっと、軽い感じもしますが、始まりや途中経過のない結末はありませんから、それらを乗り越え「終わり」＝結末まで到達しているのです。その結果が良ければ、文字どおり「ハッピーエンド」ですよ。

勿論、現実には、がんばって終わりを目指しても、成功!といえる結末ばかりではなく、これは失敗か?という場合もあるでしょう。ハッピーエンドは無理でも、せめて少しでも格好の良いエンドマークを打ちたい!と頑張る場面だってあるでしょう。

注意して欲しいのは、「終わる」と「止める」では意味が違うといことです。終わらせるといことは、途中で投げ出さずにやり遂げることです。そして、終わらせることができるのは、始めた本人です。あきらめずに、誠実に取り組んで、「自分の結末」にまで到達してこそ、達成感（場合によっては、さわやかな敗北感）と、その先への希望や意欲が生まれます。それが人生に「良い節目」を作ります。その節目はジャンプ台となって、私たちに跳躍させてくれます。

繰り返しになりますが、3学期は今年度の最終学期です。是非、物事に誠実に取り組み、それぞれに「自分の結末」を手に入れてください。この3学期の締めくくりに、皆さんの人生にとって、「良い節目」の一つとなることを願っています。

平成30年1月17日  
校長 大貫 晶子